

国頭中学校日曜授業参観

4月11日、国頭中学校日曜授業参観日である。

4月から学校現場に着任した私にとって、休日に授業を参観できるのは実に都合のいいものである。何よりも自分の学校に気兼ねなくて済む。那覇市の銘苅小学校もそうであったように休日開催はいいと思う。

さて、国頭中学校も「学びの共同体」の声を上げて4年目に入る。実質的には3年目かな？ この時期の参観の一番の楽しみは、新しく赴任してきた先生方の授業を見るのが実に楽しいのである。

「この字？協同？聞き合う？対話？」何を聞いても「はて？」と思っているのではないだろうか。さらに、国頭中学校の先生方の校内研修に向かう姿勢や、授業公開の姿勢にこれまで赴任してきた学校との違いに戸惑っていることがおおかた予想できる。「…これまでの校内研修と違う…？」新しく赴任された先生方が、これから1年間しみじみとその違いを感じ、国頭中学校での教師生活を満喫しながら、今なぜ「協同と対話」による学びの授業なのか？ 研修や研究を深めてほしい。

5月9日、県教育センターで秋田喜代美先生の教育講演会が開催された。講演会終了後玄関に向かう帰りざわ、知り合いの同僚数名に感想を聞いてみた。「よかった！よかった！ためになった。」異口同音である。「感動した。」と絶賛する声も聞こえた。さて、勝負はここからである「感動」とは「感じて」「動く」ことである。「よかった、よかった」だけの口だけでは何も変わらない。忙しいスケジュールの中をわざわざ沖縄まで来られた講演者にとって、私のお話を聞いていただいて具体的な行動を起こしてくれた時に初めて「よかった。」になるのではないだろうか。参加者250名の中から何名が具体的な行動を起こせるだろうか。沖縄の教師たちの底力を感じたい。



【 2年 社会科 】：信長、秀吉の時代にはどのような文化が生まれたか。

写真①



赴任してきた授業者である。写真①、教師の表情がいい、楽しんでいる。授業は絵写真をもとに文化や時代背景を探究していく設定である。

写真②、こんな授業は練れている。グループ内で何の違和感もなく「気づき」や「なにこれ？」などの対話が交わされる。写真③、僕の気づきの共有である。…何となく写真①と似てないですか？モデリングかな？

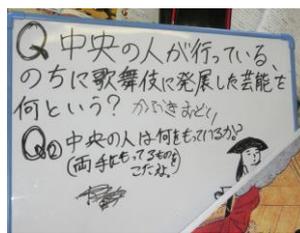


写真②

授業者は、ほんとに素敵な笑顔で授業に臨んでいる。この子たちと出会ってまだ1ヵ月です。なぜできる。…私の勝手な感想です。この授業者「生徒達に授業を楽しくさせてもらっている。」「生徒のおかげで楽しくさせてもらっている。」そんな風景に見えました。つまり授業者の生徒への謙虚な姿勢や授業への誠意が生徒に伝わり、その教師の誠意に生徒たちが授業で答えてくれている。なんて素敵な関係である。すごい教師ではなく、素敵な教師である。生徒達も、これまでの「学び」の姿勢を維持し続けている。よかった～。



写真③



写真④

授業後半、【ジャンプ課題？】新たな絵写真が生徒たちに渡された。「この絵写真をもとに教室の仲間達への問題をつくりなさい。」みんな楽しそうに「簡単でない問題をつくり始める」簡単な問題はすぐ終わって退屈な時間をつくり、「学び」がないことをなんとなく知っている。だからどうせつくるなら簡単でない問題をつくらせて楽しみたい。生徒達も何となくだけど（なぜだか知らないけれど）楽しみ方をわかってきている。

写真④、教師の関わり方、いいですね～！ 校内研修における理論研と第1回目の学年研修が先週終わったらしい。すでに学校訪問も1回終えている、たかだか1ヵ月で大変よくできました。素直に脱帽です。

【 2年 数学 】等式の変形



写真⑤

こちらも新任の教師である。一目瞭然、まじめな教師である。研究主任を任されているらしい、きっと不安でしょうね。でも大丈夫ですよ国頭中の先生方の同僚性は高いです、決してあなた一人が孤立したり、困ったりすることはありません。生徒にも言っていることですが私たち教師も「支え合い」「訊き合い」です。分からなければ、どんどん同僚に依存してください遠慮はいりません。職員室でできないことが教室でできるわけありません。教師も生徒から学び同僚から学ぶのです。

今日の授業も、「基本課題」「ジャンプ課題」の2段階で準備されていました。素晴らしい写真⑤、どのグループを見てもこの様な状況でした。「一人残らず・・・」難しいけど、ほんとに難しいけど、なんかできそう気がしてきました。夢への挑戦である。

【1枚の写真】

この笑顔が…証拠



授業終了後、黒板の授業の結果を見に行った。女の子が「これ私たちグループが解答したの。」と言ってきた。私のカメラの前に遠慮なく入ってハイポーズ。素敵ですね。癒されますね～

この行為は、彼女の今の心の表現だと思いますが、さてどの様な心境でしょう。

【 3年 英語 社会科 】

左が2年目、右が3年目の教師である。余ゆうか?…落ち着きか?



写真⑥



佐藤学：学校改革には1年目、2年目のそれぞれの壁があり、さらに教師にとっての壁と生徒たちの壁があるという。写真⑥、国頭中で初任採用であったが、教師の柔らかさ授業デザインのセンスが抜群である。国頭中にいる間にいろんな形の「学び」を追求してほしい。人は成功より失敗からの「学び」が、より大きく、成長させてくれるという。自分の教育の理念と、自分の哲学を、恐れず追求してほしい。



写真⑦

両者の板書、学習進行が書かれていて、今日は何をやるが明確で分かりやすいです。生徒たちはどこでグループでできるの?期待するかもしれませんね。今日の授業、小学校の先生方が参観できたらきっと安心できたと思います。保護者は間違いなく「安心」できたと思います。授業をあきらめたり、ふてくされたりする子が一人も見当たりませんでした。お疲れさん!



【 3枚の写真 】

- Q1. : あなたは、この3枚の写真から何を「学び」ますか。
- Q2. : なぜこのような行為が必要なのですか。
- Q3. : この行為が、生徒にとってどのような心理的作用が働きますか。



国頭中学校の先生方ありがとうございました。うれしいですね、安心しましたね～!ほんとによかった。2年生、3年生よかったです、当然1年生も。村内の小学校の先生方全員に参観させたかったぐらいです。小学校との連携が生徒たちの授業によって証明されています。理念でつながるってほんとにすごいですね。

国頭中校長先生の学校便りすでに8号、圧巻です。内容も校長先生の心遣いが温かく感じられます。『やらない後悔より、やってからの後悔』・・・ぜひ国頭中で証明してほしいです。